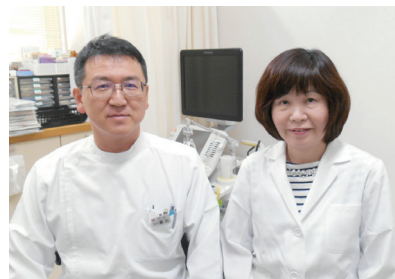


連携医院のご紹介

今回は「患者さんが抱える病気の相談に、丁寧に応じ、地域に根ざした「かかりつけ医」を目指している『さなだ内科クリニック』の眞田栄治院長と眞田祐子副院長です。



眞田栄治院長と祐子副院長

さなだ内科クリニック

〒739-0311
広島市安芸区瀬野2-12-11
電話/082-820-3001
FAX/082-820-3002
院長/眞田 栄治
診療科目/内科、消化器内科、
呼吸器内科、循環器内科、
糖尿病内科、
リハビリテーション科



○いつ開業されましたか？

副院長が生まれ育ったこの地に平成10年2月に開業し、今年で20年になります。

○開業されてから今までのごことを教えてください。

この地域に大規模住宅団地が造成されたため、開業後人口が急増しました。

このため、当院には若い子育て世代から古くからこの地に居住されている高齢者まで、幅広い世代の方が来院されます。

また、介護が必要な高齢者の増加に対応し、17年前にデイサービスセンターも併設しました。

○毎日の診察で大切にしていることは何ですか。

「患者さんの立場に立って考える」ことを忘れず、多様な病気に幅広く応じ、何でも相談してもらえるよう丁寧に親切的な診療を心掛けています。

○開業医のやりがいは何ですか？

「かかりつけ医」として患者さんの健康を守っていることを強く意識し、診療を行っています。がんを早期発見し、効果的な治療につながった時などは、患者さんや家族に喜んでいただき、「かかりつけ医」冥利につきます。

また、毎日、多様なニーズを抱える患者さんと接することは、変化に富んでいて、楽しく感じています。

○県病院について一言。

当院から県病院に紹介させていただいた患者さんに対し、多くの先生方に丁寧な診察をしていただき、感謝しています。

また、時間外でも救急対応していただき、大変助かっています。これからもよろしくお願ひ致します。



デイサービスセンター



さなだ内科クリニック外観

【取材後記】

駐車スペースも広く、段差のないスロープや車いす用トイレなど患者さんが困らない配慮をされるなど、両先生の優しい人柄が伝わりました。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

恭賀新年



撮影 / 桑原正雄

県立広島病院からのお知らせ

呼吸器センター 開設記念講演会

開催日 平成30年 **1月19日**(金)
時間 19:00~21:00
場所 中央棟2階 講堂
司会 呼吸器センター長/石川 暢久
挨拶 院長/木矢 克造

講演1 『肺がん治療の最新の話』
静岡県静岡がんセンター
呼吸器内科部長/高橋 利明 先生

講演2 『「間質性肺炎」を呈する患者へのアプローチ』
広島大学大学院医歯薬保健学研究所
分子内科学教授/服部 登 先生

対象 医療従事者 及び その関係者
問合せ先 ☎082-254-1818 内線(4261)
総務課 経営企画担当(山本)

1月のがんサロン

開催日 平成30年 **1月24日**(水)
時間 14:00~15:30
場所 新東棟2階 総合研修室
テーマ ヨガで心と体をリフレッシュ
講師 ヨーガ療法士 のままりこ さん

対象 悪性腫瘍(がん)で通院または入院されている患者さん 及び そのご家族

問合せ先 がん相談センター
TEL:082-256-3562
(担当:奈須)



ハチ公像

新春を迎え、謹んでお喜びを申し上げます。
今年の干支は戌年です。「戌」という字は犬の中でも賢い犬を指すそうです。亡き主人をひたすら待ち続けていた忠犬ハチ公の話は有名ですが、戌年の人は誠実で真面目、思いやりがあり

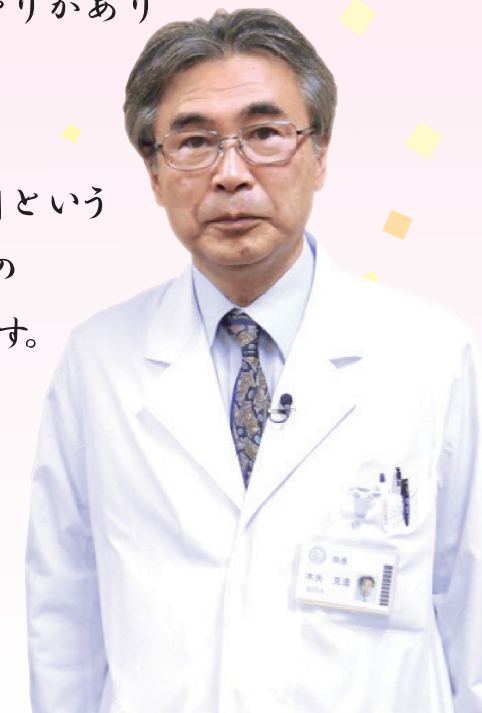
献身的なので周囲からの信頼も厚いとされています。

医療人からみてもお手本です。

『怒』という「何とかして助けてあげたい、力になりたい」という気持ちを大切にされた県立広島病院として、今年もなお一層の皆様のお役に立てることができるよう精進していく所存です。
今年一年が安寧で、健やかな暮らしとなりますことを祈念しております。

平成30年 元旦

県立広島病院 院長
木矢 克造



— かかりつけ医 —

最近、院内に「かかりつけ医」を持ちましょう、というポスターが貼られています。皆さんお気づきでしょうか？字が多くてあまり目立たないポスターですが、今、国が進めている医療政策の一つです。皆さんの中に県病院がかかりつけというひとはいませんか？かかりつけ医の役割として、生活習慣病などの慢性疾患の管理と重症化の予防、在宅支援や介護との連携を行い、必要に応じて専門医療機関へと紹介する、などがあります。患者さんは、かかりつけ医に診てもらいながら、精密検査や手術などの治療が必要な場合には、県病院のような総合病院や大学病院に紹介状を持って受診することになります。ここで、紹介状がなければ、患者さんは会計で5,400円余分に支払うことになってしまいます。これは県病院が勝手に決めたわけではなく、お国からのお達しです。ただし、救急の場合には免除されます。昨年8月、急に首が痛くなり、右手が痺れるようになった私は、当院の整形外科の先生に診てもらい、飲み薬で治療しましたが、かかりつけ医からの紹介状がなかったため、5,400円余分に支払いをしました。「私のかかりつけ医は、自分です」と抵抗したものの、当然そんなたわごとが通用するはずありません。ここまで読んでいただければ、県病院がかかりつけ医にはならないことがご理解いただけたでしょうか？かかりつけ医というのは、県病院のような総合病院ではなく、診療所の先生を想定した制度なのです。家族も含めて普段の健康管理を行う身近な医師のことで、日頃の診察の他にも健康相談や検診、指導も含め、いろいろな問題について気軽に相談することができる医師です。「県病院の〇〇先生は、気軽に相談にも乗ってくれるし、身近です」と言われてもかかりつけ医にはなれないようです。もちろん県病院の先生は、これからも外来診療を行います。状態の落ち着いている患者さんは、かか

りつけ医で診てもらって、もし精密検査や新たな治療が必要となった場合には、紹介状を持参して頂いたらいつでも診察させていただきます。そして、外来診察の時間に余裕が出た分だけ入院患者さんや救急患者さんの対応に時間を費やしたいと思えます。外来で、患者さんにかかりつけ医での診察を勧めると、丁寧に対応したつもりでも患者さんは家に帰って「もう来るなど言われた」とか「よそに行け、と言われた」とかご家族の方にお話しされることがあります。まあ、言っていることは同じかもしれませんが、決してもう診ないと言っているわけではなく、緊急の場合はもちろん精密検査や治療の変更が必要な場合には、ちゃんと診察させていただきますのでご了解ください。かかりつけ医やかかりつけ薬局を持つと多くの利点があります。複数の医療機関から薬を処方してもらって、中には重複している薬がありませんか？10種類以上の薬を内服してそれだけでお腹一杯になりませんか？沢山薬を飲んでいて薬同士の相性が悪い場合もありますよ。かかりつけ医や薬局で相談してみてください。薬を止めてみたら症状が良くなったという話も聞きますよ。実はその話は、私の師匠の先生から最近聞いた話です。先生はもう30年以上前から胸焼け、逆流性食道炎のために胃薬を飲み続けていたそうです。先生のお母さんも沢山薬を飲んでおられ、何かのきっかけで薬を全部やめたそうです。そうするとすごく元気なられたそうです。それで先生も長年飲み続けてきた胃薬を止めたそうです。するとなんと、「妄想が治った」と私に言われたのです。「えっ？妄想？今まで先生が私に言われていたことは全部妄想だったのですか？」と聞くと、ニヤッと笑って「そうかしれん」という返事でした。

副院長(消化器センター副センター長/消化器・乳腺・移植外科主任部長) 板本 敏行



箱庭療法

つらいと感じた時、話を聞いて欲しいことなどありましたら

臨床心理室をご利用下さい

臨床心理室は、入院や外来での治療にあわせて、患者さんやそのご家族の心理的なサポートをより丁寧に行っていこうという目的で平成28年4月にスタートしました。現在3名の心理療法士(常勤2名、非常勤1名)が勤務しており、さまざまな診療科からの依頼に対応しております。患者さんやご家族へのカウンセリングや心理的なケアはもちろんですが、患者さんやご家族へのより良い対応を目指してスタッフとの話し合いの時間なども持っています。

主な業務内容

心理療法 (心理カウンセリング)	時間をかけていろいろなお話をしていく中でご自身の感情や考えの整理をし、気持ちのつらさを軽減したり、問題を解決していくことを目指していきます。
心理検査	ご自身の現在の心の状態や性格の特徴などを調べ、今後の治療や生活に役立つための資料を提供いたします。 (いくつかの心理検査を組み合わせて行います)
発達検査	お子さんの成長発達の状態を知るための検査を行い、お子さんが持つ特徴などに関する情報を提供いたします。また、お子さんとの関わりに対してのサポートも行います。
心理相談	ご自身の病気のこと、ご家族の病気のことなどで気持ちのつらさがある、これからのことを考えていくためにも気持ちを整理したいなどといった心の悩みに関する相談をお受けします。

※心理療法、心理検査をご希望の際は、精神神経科の受診が必要となります。
※発達検査は小児科、新生児科を受診されている方やご家族が対象となります。
※心理相談は精神神経科以外の診療科を受診されている方やご家族が対象となります。

臨床心理室の思い

病気や治療は、患者さんやご家族の今までの生活を変化させるものであり、それによる心理的な負担も大きくなります。こんなに不安になってしまうのは自分が弱いからだとか、こんな風に悪いことばかり考えてしまう自分はおかしいのだろうか、などと考えてしまう方もいらっしゃるのではないかと思います。治療の中で生じてくる不安やつらさは決しておかしいものではなく、人として自然な反応と言えます。(逆に不安やつらさがないからと言って、それがおかしいことであるということでもありません)

何かストレスを抱えた時、人にはさまざまな反応が生じ、それがストレスによって起こっていることだと気づかない場合もあります。話をすることで何か劇的に解決することはありませんが、ご自分の心の中で起こっていることを理解し、整理できると、それだけで少しほっとできることもあります。つらい気持ちや苦しさ、悲しみなどを感じた時、それを我慢する必要は全くありません。

臨床心理室では、そういった皆さまのいろいろな思いを聞かせていただき、少しでも皆さまの心を軽くするお手伝いができるように願っています。

臨床心理室を利用するには

まずは担当医師、看護師へご相談ください。話だけでも聞いてみたいといった相談でも構いません。ご依頼いただきましたら、日時などを調整後、心理療法士との面談となります。精神神経科における心理療法、心理検査には保険診療が適用されます。他科の心理相談は無料で行っています。



お待ちしております!!



安食(左)・杉(右) 心理療法士

当院に通院中の方、入院中の方、そのご家族のどなたでもご利用いただけます。



脳心臓血管カンファレンス

脳心臓血管センター長：上田浩徳

カンファレンスの内容をお伝えします!

冠動脈疾患患者における脂質管理

【循環器内科：ト部 洋司】

多くの大規模臨床研究により、スタチン(肝臓でのコレステロールの合成を抑える薬剤)による低密度リポ蛋白質(Low Density Lipoprotein: LDL)コレステロール(悪玉コレステロール)の低下療法が、心血管イベントの発症・進展抑制に効果があることが示されてきました。昨年6月に発表された動脈硬化学会の動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017では二次予防におけるLDLコレステロールの管理目標値が一部改訂となり、①家族性高コレステロール血症、②急性冠症候群(心筋梗塞等)、③高リスク病態の糖尿病患者においては70mg/dL未満にコントロールすることが推奨されました。脂質異常を合併したハイリスクな病態には、より厳格なコントロールが必要です。

椎骨動脈の波形異常による超音波診断

【脳神経内科：荒木 睦子】

椎骨動脈は大動脈から上肢へ行く鎖骨下動脈から分岐し、左右2本存在します。後頸部を上行しながら脳底動脈に流入し、脳に血液を供給する重要な血管です。超音波診断機器の進歩により、ドップラー法による流速波形を調べることで椎骨動脈の狭窄の程度や閉塞部位を診断することが可能となっています。

その逆流パターンから鎖骨下動脈盗血症候群(SSS; Subclavian Steal syndrome、鎖骨下動脈の高度狭窄や閉塞により大動脈から上肢への血流が低下し、椎骨動脈から脳内の血流が上肢に逆流するため脳神経症状が出現する病態)もスクリーニング可能です。

